

ロジメーター ユーザー会

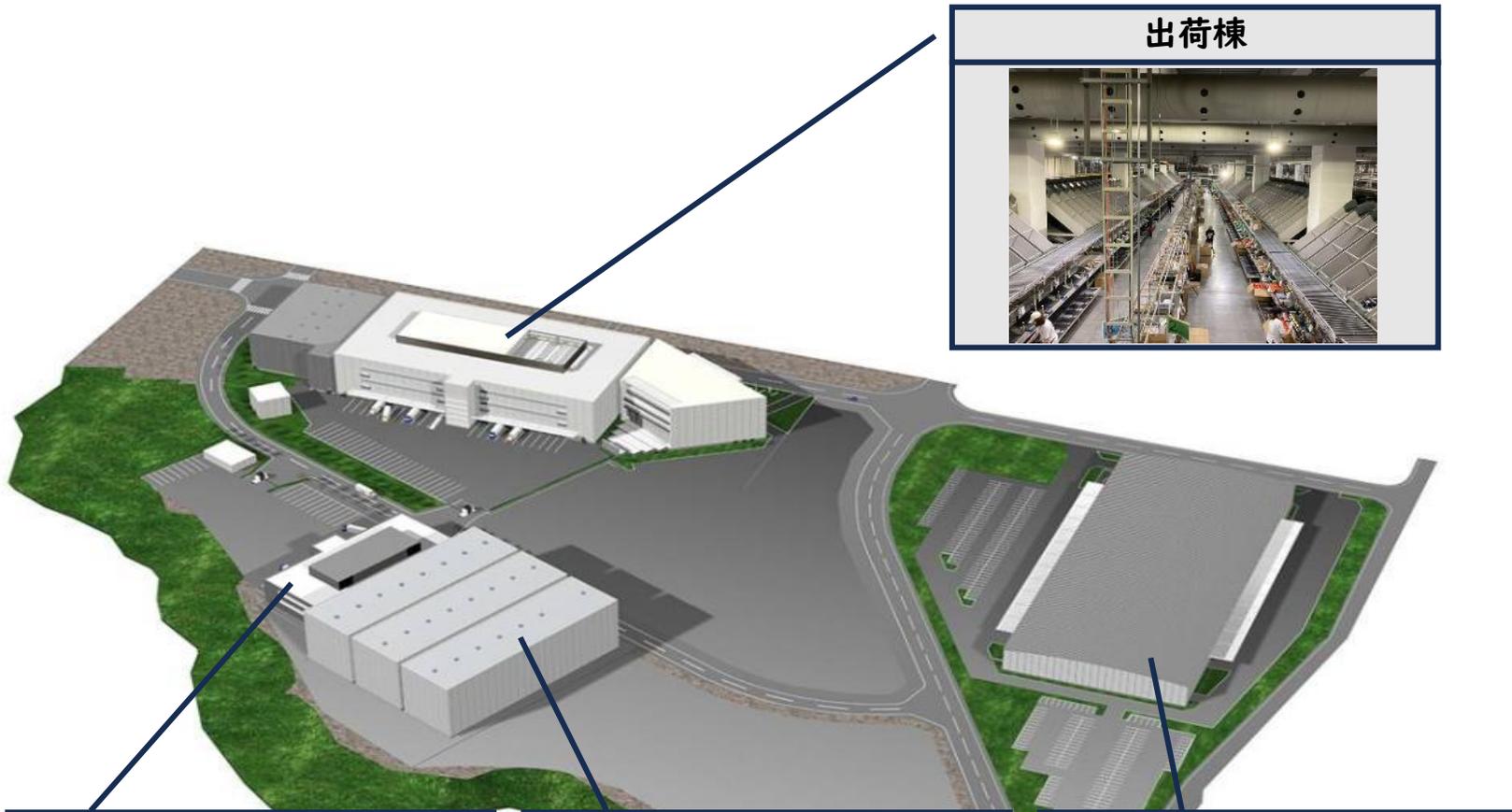
～データ活用事例紹介～

2025.7.9



- 会社概要
- 事業所紹介
- ロジメーター導入の背景と課題
- 活用事例
 - ① 人時集計の自動化
 - ② 高精度な人時取得による、作業計画の精度向上
 - ③ 進捗ツールの活用
- 今後の展開

- **会社名** 日本通運グループ 日通佐倉運輸株式会社
- **設立** 1942年（昭和17年）7月1日
- **本社所在地** 千葉県佐倉市大作1-8-7
- **事業所** ナイキCSC事業所（富里市）・ナイキ南船橋事業所
- **従業員数** ナイキCSC事業所 400名（社員65名、パートスタッフ335名）
- **主な事業内容** ナイキの物流における倉庫内作業



出荷棟



入庫棟



パレット自動倉庫



通販棟



荷主であるナイキ様の物流センター内に事業所があります。

ナイキ様とは、2000年のセンター創設以来25年間3PLとして倉庫内作業のパートナーシップを結んでいます。

敷地面積は東京ドームの約3倍面積マテハンが主となっている自動倉庫です。

大きく3棟に分かれた建屋となり、入庫、出荷、通販作業を行っています。

<p>導入背景</p>	<p>人時/生産性管理において、マニュアルでの人時集計、EXCELへの転記など、情報採取する為に、作業員や管理者の労力を要する状況であり、無駄な人時を削減する目的として、導入に至りました。</p>		
<p>課題</p>	<p>人時集計</p>	<p>作業員は作業ごとに時間のメモを取り、管理者は手書きで残した実績をEXCELに転記、作業員、管理者、双方に時間と手間がかかっていた。</p>	<p>活用事例 ①</p>
<p>高精度な人時取得</p>	<p>倉庫内で生産性を管理している作業タスクが多く、マニュアル集計の為、精度の高い人時の取得が困難であった。 (カテゴリー 25 作業タスク 205)</p>	<p>活用事例 ②</p>	
<p>計画の精度</p>	<p>高精度な人時の取得が困難であることから生産性の予測が難しく、作業計画と作業実績にばらつきがあった。</p>	<p>活用事例 ③</p>	
<p>進捗の可視化</p>	<p>エリアごとの作業進捗は把握できているが、倉庫内全体を一元的に可視化することができていなかった。</p>	<p>活用事例 ③</p>	

従来のマニュアル集計では、「集計作業の煩雑化」を伴うため、この無駄を解消する解決策として、ロジメーターを導入し、年間1,500人時の削減ができた。

Before

マニュアル人時集計

- 作業者が作業タスクと時間をメモ
- 管理者がメモを集計
- 生産性管理表へ入力



After

ロジメーター

- ✓ ロジメーターでスキャン
- ✓ Excelにエクスポート
- ✓ 生産性管理表に半自動的に反映



管理者の集計時間が、年間で約1,500人時削減



従来のマニュアル集計では「人時の精度」に課題があった。ロジメーターの導入により、「一秒単位の記録」と「スキヤンの習慣化」で正確な人時の取得が実現した。

人時精度向上に関する課題

Before

計算ミスや
転記ミス

記録時の記憶が
曖昧なケース

15分単位での
記録



After



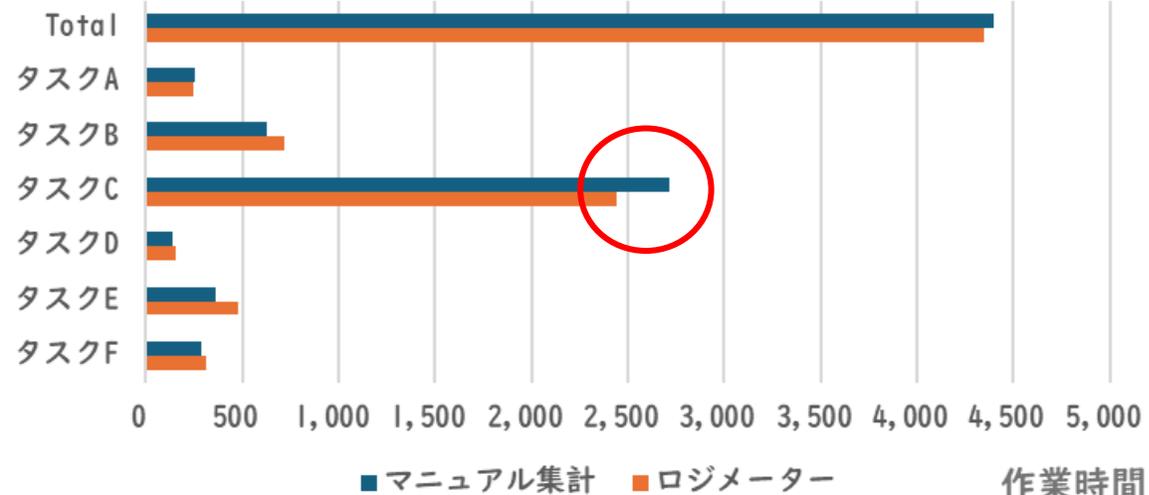
Logimeter

Excel
自動集計

作業切替時の
スキヤン

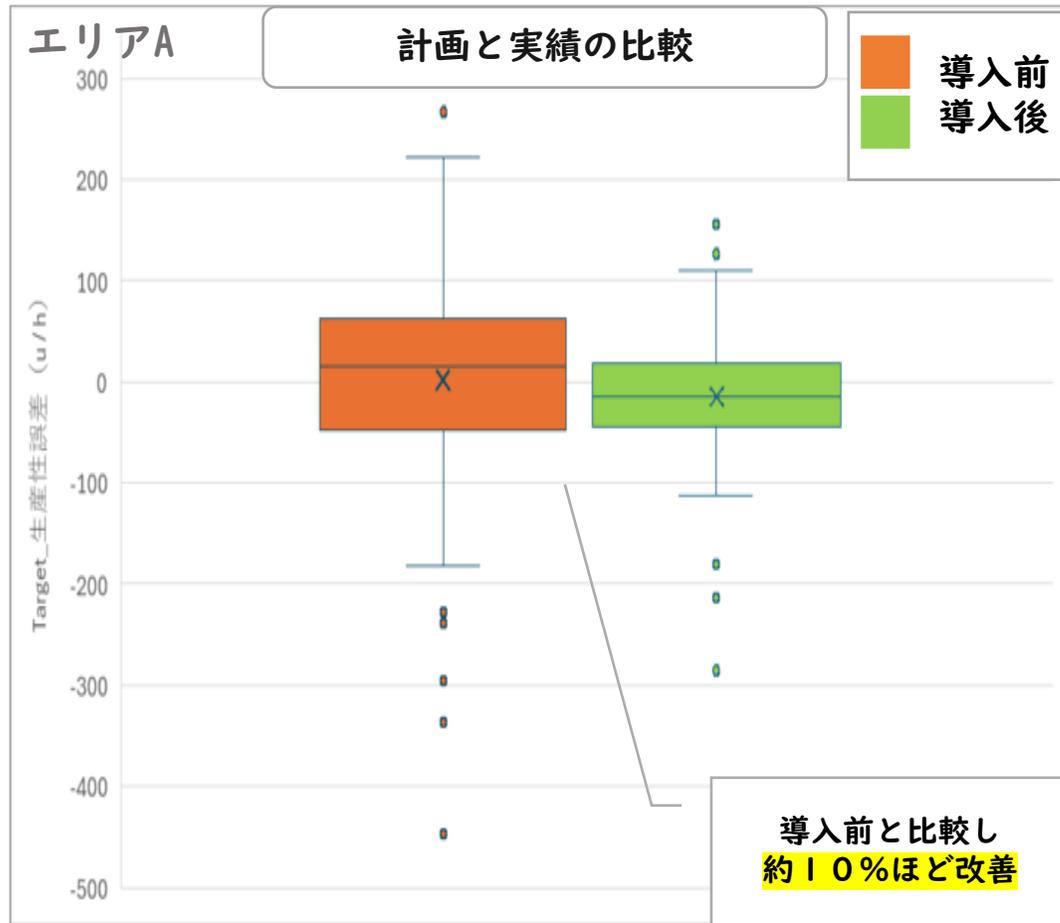
1秒単位の
記録

エリアA マニュアル集計 vs ロジメーター

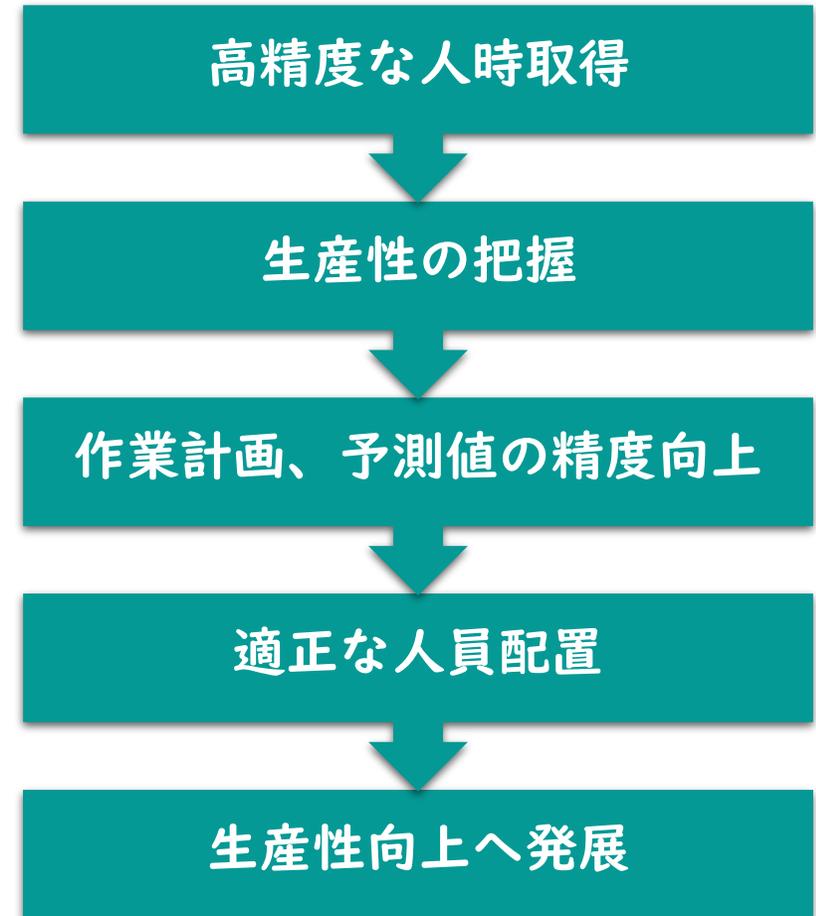
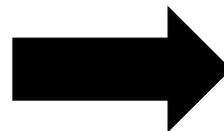


作業タスクの高精度な人時取得ができた。

高精度な人時取得により、計画の精度が改善され、計画と実績の差が縮小
余分な作業人員が削減でき、昨対比では11%ほど生産性を向上させることができた。

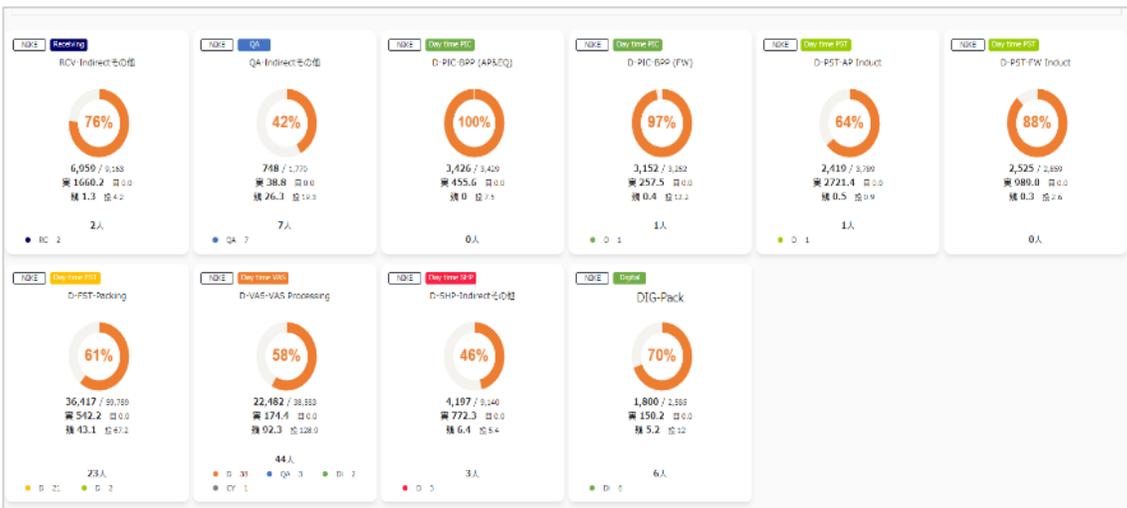


人時取得精度の向上による利点

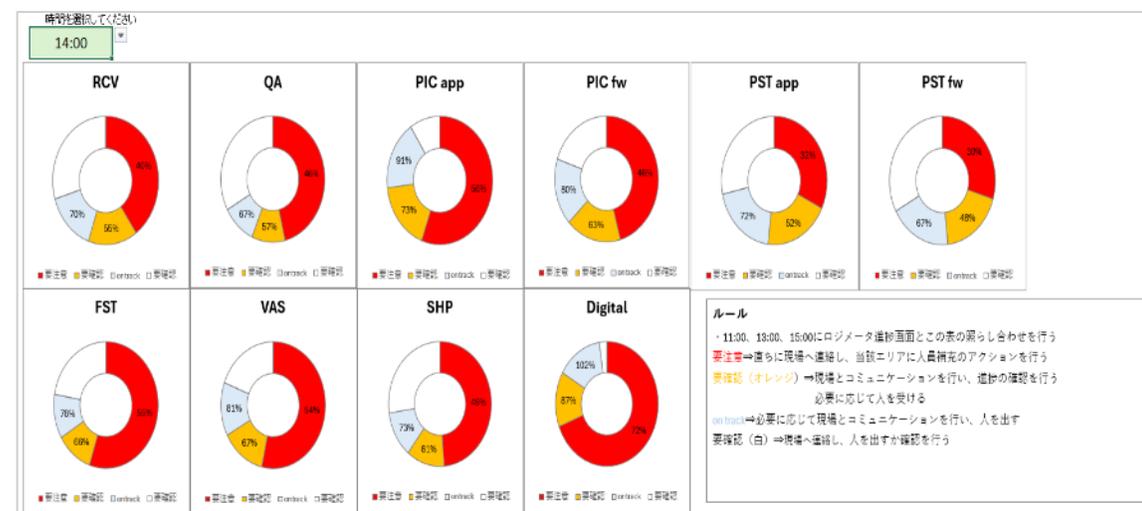


ロジメーターの進捗画面を活用し全エリアの進捗を可視化、進捗画面と独自の進捗Chartを比較することで全エリアの進捗具合が把握できるようになった。

Logimeter

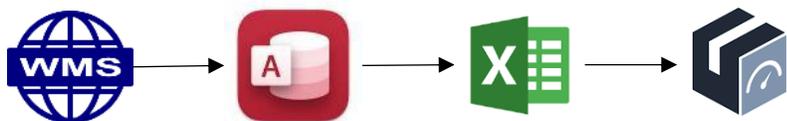


進捗Chart



VS

↑これまでの作業実績から進捗Targetを作成



進捗画面への実績更新を自動化
WMS→RPA→EXCELを使用し、ロジメーターへ
インプットする仕組みも導入した。

時間帯別進捗%を定義、ロジメーターの進捗%と
対比し、ブルー、オレンジ、レッドと進捗
を可視化した。

今後の展開 ロジメーター変遷分析画面の活用



ロジメーターの導入により、今まで把握できなかった作業の切り替え回数やエリア間移動回数の現状把握が可能となった。今後、データを活用し、人員の計画、配置、所属エリアの適正人数を分析した改善を検討中。



作業の切り替えが発生
改善ポイント

ご清聴ありがとうございました。

